

2021年度 代議員選挙 候補者宣伝文

第1区選挙区 区西南部・区南部

5名

● 石川 未来（日本赤十字社総合福祉センター レクロス広尾）

私はこれまで、介護老人保健施設や通所リハで職務し、さらに介護老人福祉施設と通所介護の開設に関わりました。その後同センター内での様々な異動を経て、現在は再度、介護老人福祉施設で機能訓練指導員として従事しております。

近年の介護保険制度の改定により入居者の介護度は年々重度化し、シーティング・ポジショニング・様々な福祉用具の選定や福祉用具の作成、介護職員の介護負担軽減のための取組、備品管理等、機能訓練指導員の役割は多岐に渡り、ここ数年でますます求められている業務内容は、拡大しております。このように、入居者の日々の暮らしのマネジメントだけでなく、介護職員や看護職員の業務のマネジメント、負担軽減のための取組まで幅広く対応できるOTは、改めて介護老人福祉施設・通所介護での機能訓練指導員に最も適した職種であると考えられます。

しかし、まだまだ福祉領域や地域で活躍するOTは少なく、元々リハ職が機能訓練指導員を担っている割合も全国的に少ない状況で、なおかつ機能訓練指導員として従事するOTはPTに比べて遥かに少ない状況でもあります。

そこで今回私は代議員に立候補し、都心部での福祉領域や地域で活躍するOTの実践に役立つ情報交換や有益な情報の共有、魅力の共有を図り、機能訓練指導員としてもOTは活躍できるということをまずは、区西南部OT内で周知し、OTの職域拡大につながることを目標に活動いたします。

● 菊池 大典（専門学校 首都医校）

私は身体障害領域、精神障害領域、そして訪問リハビリテーション領域を経験し、現在は養成校の教員をしております。これまで第5区の代議員として活動する傍ら、東京都作業療法士会教育部（以下、都士会）の部長として、生涯教育制度の推進に取り組んできました。今後も都士会の活動に貢献したく、この度の代議員選挙に立候補いたします。今回は職場が新宿となったことから、第1区での立候補となります。代議員となったあかつきには、教育部と各ブロックの連携強化、研修会コンテンツの更なる充実、都士会活動に従事する方々がこれまで以上に働きやすい環境構築に取り組む所存です。東京都内に勤務する作業療法士がより良い自己研鑽に取り組めること、さらに働きやすい環境づくりに向けて尽力いたします。何とぞ、有権者の皆さまからのご支持を賜りたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

● 齊藤 洸太（中野区役所）

私はこれまで、14年の経験の中で、通所リハビリテーション、介護老人保健施設、訪問リハビリテーション、介護老人福祉施設、軽費老人ホーム、障害者福祉施設、回復期病院を経験し、現在は行政で介護予防・日常生活支援総合事業(以下、総合事業)の政策を行っています。

行政における総合事業は、本人への直接支援だけでなく、多職種連携や地域資源を活用したアプローチが必要です。このアプローチと、作業療法士の直接支援に限らない考え方や、生活行為向上マネジメントは親和性が高く、高齢化社会に必要な能力・技術であると考えられます。

行政における作業療法士の人数は、国家資格化されて以来減少していますが、総合事業開始から需要が高まっています。

私は代議員に立候補し、行政における作業療法士の取り組みを、区西部をはじめ、東京都、全国で論文や学会発表を行うことで、医療・介護保険分野以外の職域拡大の種をまけるよう活動していきます。

● 春口 麻衣（スギコー訪問看護ステーション）

私はOTとして15年の経験の中で、回復期、維持期、生活期の方に対する支援を提供して参りました。現在は訪問看護ステーションからの訪問作業療法を提供しています。地域生活を支援するために、OTとしての専門性を高めることはもちろんですが、多職種が関わる中でOTの役割を明らかにし、説明し、獲得していくことの重要性を感じています。OTとしてのアセスメントをどう伝えるか試行錯誤して参りました。

また、東京都作業療法士会では地域包括ケアシステム対策委員会の副委員長として、地域包括ケアシステムの中でOTが活躍できるよう活動しております。研修を企画開催する中で、地域支援や介護予防に馴染みのないOTの方も参画しやすくなるよう内容を検討し、OTの職域や個人に向けた情報発信にも努めて参りました。

私が代議員として当選させて頂きましたら、OTがOTとしてより現場で活躍しやすく、より活動の場を拡大できるようになることを視点に、活動して参ります。

● 和仁 久見子（初台リハビリテーション病院）

私は東京都作業療法士会が2014年度から東京都二次保健医療域を6つの地区に分けて活動を開始した時から、西部・西南部ブロック委員として活動をしてきました。所属先のOTだけではなく、他の職場や領域のOTと協業し、OTを知ってもらう啓蒙活動、研修会の開催、都学会の運営に携わるなど様々な経験を積ませていただきました。中でも力を入れたのは西部・西南部ブロック長時代に行った、施設見学会付き交流会やミニ勉強会付き交流会です。OTになって17年。ブロック委員や東京都作業療法士会の福祉用具部員としての活動の中で、様々なOTと交流して得られた知識や考え方は確実に自分のOTに活かしています。ですので、私が代議員として意識の中心に置くのは、「OTとOTを繋ぐ」ことです。東京都作業療法士会の既存の活動に参画するだけではなく、新たな活動も模索しながら、OT同士の繋がりを通してOTが発展・進化できるよう活動したいと考えています。

● 宇佐美 好洋（帝京平成大学）

この度、東京都作業療法士会代議員選挙に立候補しました宇佐美好洋と申します。私は、2020年度より教育部担当理事に就任致しました。教育部は、主に日本作業療法士協会の生涯教育制度で定められている研修を企画・運営する部署です。生涯教育制度は、2003年度に「作業療法士の質の保証」という大きな課題に対応するために創設された制度で、作業療法士の質の向上、発展に繋がるものだと思っています。しかし、作業療法士を取り巻く環境は様々な側面で年々大きく変化しております。私の関わっているところでは、COVID-19の感染拡大の影響で研修の中止が相次ぎ、オンライン会議システムを使用した研修が普及しました。これからも作業療法士を取り巻く環境は変化していくと思いますが、作業療法士の質の向上、発展に貢献できるよう尽力していきたいと思っています。精一杯努力してまいりますので、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 竹山 眞美（東京北医療センター）

この度、東京都作業療法士会の代議員選挙に立候補しました、竹山眞美と申します。私の専門は、急性期の身体障害領域の作業療法です。私は急性期より、地域に根差した医療を実践することで、その人の人生を豊かにできる医療人となり、社会に貢献しています。

担当する対象者様の半数は、自宅退院される方がいます。そのため、より近隣の施設や病院等と繋がるのが重要と感じております。代議員になりましたら、区西北部ブロックの会員の皆様の意見を反映させ、区西北部の住民の皆様、延いては都民の皆様のかげ橋の一助となれるよう努めたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

● 中本 久之（帝京平成大学）

この度、東京都作業療法士会代議員選挙に立候補しました中本久之と申します。東京都作業療法士会の活動には臨床1年目から関わらせて頂き、15年を迎えます。その間、保険部の部長、理事を務め、現在は東京都理学療法士協会、東京都言語聴覚士会との共催事業に主に関わらせて頂いております。また、職場の所在地でもある豊島区では、豊島区高次脳機能障害者支援者連絡会に参画し、地域連携や学生の地域参画のための活動をしております。

引き続き、区西北部を中心とした活動をしつつも、会員の方が臨床や教育、研究を通して地域での連携、士会を越えた連携が促進されるよう、幅広く活動していきたいと考えております。代議員制度を導入している士会ですので、ぜひ忌憚のないご意見を代議員にお寄せ頂き、会員の皆様とより良い士会にできればと思います。（399字）

● 森本 美和（豊島区リハビリテーション従事者連絡会）

この度、初めて代議員に立候補させていただきました森本美和です。
私は現在、東京都作業療法士会の中で区西北部ブロック委員、地域包括ケア対策委員、広報部員として活動させていただいております。
また、豊島区リハビリテーション従事者連絡会の副会長として豊島区の地域リハビリテーション活動支援事業に携わせていただいております。
地域の中でOTが関わることの重要性や楽しさを日々感じつつ、OTの認知度が低いことや関わることのできる会員が少ないことについて危機感を覚えながら従事しております。
代議員として、区西北部ブロックの会員の皆様の意見を反映させ、区西北部の住民の皆様、延いては都民の皆様の健康増進や幸福な生活の一助となれるよう努めたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

● 山下 高介（日本リハビリテーション専門学校）

この度、東京都作業療法士会（以下、士会）の代議員選挙に立候補しました、山下高介と申します。
私の専門は、精神障害領域の作業療法です。現在、士会では区部ブロックと認知症の人と家族の生活支援委員会の担当理事として関わらせていただいております。

近年、日本作業療法士協会（以下、OT協会）は事業計画の重点活動項目として精神科作業療法に関する取り組みを挙げてきました。私が代議員として立候補した理由は、このOT協会の流れを士会にも取り入れていきたいと考えたからです。理事と代議員という両方の立場を通して、士会の精神科作業療法への取り組みを、より活発にしていきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いたします。

● 大瀧 直人（いずみ記念病院）

今回、代議員に立候補させていただきます、大瀧と申します。私は東京都足立区で、身体、高次脳機能障害などを有する方に急性期、回復期、生活期にて、日々作業療法士として働いています。また、東京都地域リハビリテーション支援センター、高次脳機能障害普及事業、東京都作業療法士会教育部、ブロックなどでも活動を行ってきました。そこで、これらの経験から東京都作業療法士会がさらに発展し、会員や一般の方々に向けてより良い組織となるために、今回代議員に立候補させていただくこととなりました。今後は事業内容について、知識を深めると共に、会員の皆様のご意見を事業に反映できるように努力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

● 小林 法一（東京都立大学）

経済的豊かさが強調される時代もありました。価値観が多様化した現代、ますます作業療法が必要な社会になっていると感じます。東京都作業療法士会がしっかり役割を果たすよう、応援する所存です。

<現職>

- ・東京都立大学保健福祉学部 教授

<社会活動>

- ・一般社団法人東京都作業療法士会 副会長
- ・東京都地域リハビリテーション支援センター選定委員会
- ・荒川区地域ケア会議アドバイザー 他

● 酒井 康年（うめだ・あけぼの園）

私は現在日本作業療法士協会において、常務理事を担いつつ、東京都作業療法士会にあって、並行して子ども委員会委員、地域包括ケアシステム対策委員会委員、監事という役を仰せつかり、協会業務及び都士会業務に携わっております。自分自身の臨床における経験に加えて、このような社会貢献活動の経験を活かして、東京都作業療法士会が今後より発展するために、少しでも尽力していきたいと願っております。

現在協会員＝士会員の取り組みが進んでいる通り、協会と士会がこれまで以上に密な連携を重ねていくことが求められていくことが考えられますので、現在の自分の立場を有効に活用しつつ、取り組んでいきたいと考えています。

● 谷村 厚子（東京都立大学）

東京都作業療法士会に入会して 23 年目になります。ここ 7 年余りは東京都作業療法士会学術部担当理事として東京都の作業療法の学術的発展に努めてまいりました。この新しい日常の中、人々の持続可能な生活をめざした東京都作業療法士会の事業に少しでも貢献できればと代議員に立候補いたしました。よろしくお願ひ申し上げます。

<略歴>

1992年 北海道大学医療技術短期大学部作業療法学科卒業、
医療法人北仁会 旭山病院 作業療法士

1999年 東京都立保健科学大学保健科学部作業療法学科 助手

2005年 首都大学東京健康福祉学部作業療法学科 研究員、助教、2012年より
同准教授

2009年 博士（保健科学）（首都大学東京大学院）

2020年 所属先が東京都立大学に名称変更

現在に至る

<社会活動>

（一社）日本作業療法士協会学術部部員

（一社）東京都作業療法士会学術部担当理事

● 馬場 博文（ライフクリニック）

この度、令和 3 年度ブロック代議員に区東部東北部より推薦頂きました、墨田区の医療法人社団健心会 ライフクリニックの馬場博文と申します。

勤務先では訪問リハビリテーションに従事しながら、地域ケア会議や地域活動支援事業等にも参画しております。現在の勤務先には、訪問リハビリテーション事業の開設と同時に入職した為、初めは何も分からず必死に働いていた中、様々な機会や手助けを頂いたのが、東京都作業療法士会でした。東京都作業療法士会で出会えた作業療法士仲間・経験は私自身が作業療法士として改めて見つめ直す・夢を持つきっかけとなり、この 6 年間で全力疾走で駆け抜けてくる事が出来ました。

今回お声掛け頂いた際には、若干の戸惑いありましたが、少しでも東京都作業療法士会に恩返しをしたいと思い、推薦を受けさせて頂くことにしました。皆様とよい一層成長できる環境を作っていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

● 阿部 幸太（聖路加国際病院）

私は、区中央部・区南部のブロック委員を約6年間務めさせて頂いており、作業療法の普及、東京都作業療法士会会員への研修会の運営などに携わりました。その中で、特に意識していたことは、会員の方へブロック委員として貢献できることはないだろうか。どのような内容の研修会を望んでいるのだろうか。など、会員の方の声でした。その声を、東京都作業療法士会へ伝えることで、よりよい組織運営、作業療法の発展へとつながっていくと考えています。

現在、私は急性期病院と訪問看護ステーションを兼務しており、病院と地域をつなぐ仕事を行っております。このような経験を活かすことで、東京都作業療法士会と会員のつながりをより強くするための力になれるのではないかとおもい、今回立候補することに致しました。よろしくお願ひ致します。

● 阿部 元彦（在宅総合ケアセンター元浅草）

この度、第4区の代議員選挙に立候補しました阿部元彦と申します。

私は4年前より区中央部・区南部ブロック員としてブロック活動に参加してきました。ウィズコロナ時代となり、私たちの働き方・学び方が変わり始めています。当ブロックでの活動に関してもオンライン研修への変更や参加していた地域活動の延期などの変化が起きております。2年前よりオンライン研修などに切り替えていますが、対面研修を企画していた頃と比べ、参加人数が少なくなっています。同じ地域で働く作業療法士の交流機会が減少していると感じています。

今回、代議員に立候補し、ブロック活動に留まらず、東京都作業療法士会の発展に向け、微力ながら励んでいきたいと思ひます。

● 松本 宗一郎（蒲田リハビリテーション病院）

私はこれまで教育部員や区中央部・区南部・島しょ部ブロック員として、都内・ブロック内における研修会の企画・運営とブロック内の親睦を図っていくための様々な活動に携わってきました。また、臨床実習指導者講習会においては講師や世話人として参加をし、東京都作業療法士会の様々な活動に尽力してきました。

所属施設においては、対象者への関わりをはじめ、地域リハビリテーション活動支援事業内における、地域ケア会議や通いの場立ち上げ等、回復期リハビリテーション病棟から地域内における活動等、幅広く携わってきました。

今回、代議員となった暁には、これまで東京都作業療法士会の活動や所属施設内で得られた経験を活かしながら、卒後教育やブロックにおける連携体制の強化等、これまで以上に尽力させて頂きたい所存でおりますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。

● 森田 将健（NTT 東日本関東病院）

私は急性期病院で働いており、東京都作業療法士会区中央部・区南部・島しょ部のブロック委員を務めております。また、品川区のリーダーを務めさせていただいております。

この度、同ブロック委員、当院スタッフから代議員の推薦をいただきました。

現在多くの作業療法士が回復期病院で勤務しており、在宅生活との懸け橋として奮闘しています。しかしながら、急性期医療の発達とともに急性期病院からの自宅復帰率も50～80%まで上昇しています。日々臨床業務に追われ、付随する業務に追われているにも関わらず、急性期病院で働く作業療法士は多くありません。業務に追われているからこそ、声を上げる機会も少なく、都士会への声が届きにくくなっていると思います。そんな急性期病院の作業療法士の立場を代表して声をあげられる代議員として尽力させていただきたいと考えております。

● 山本 司（東京医科歯科大学病院）

区中央ブロックの委員として5年ほど活動し、多くの方々に支えていただきました。研修会の企画や運営を通じて、作業療法の多様性を感じました。作業療法は知れば知るほど、興味深く・面白いと思えました。作業療法を内外にPRし、より多くの方に作業療法を知っていただきたい。それには作業療法士ひとりひとりの自己研鑽が必要と考えます。

よって、代議員の活動を通して、臨床に役立つ知恵・知識・技術が得られる研修会を開催するとともに、多くの作業療法士が疑問を表出し、悩みを語り合えるような『作業療法士同士が繋がれる』環境が作られるように提言していきたいと思えます。また、作業療法の魅力が社会に発信されるよう尽力したいと思えます。

● 今村 美希（吉祥寺南病院）

私は武蔵野市にある二次救急病院の主に身体障害領域の急性期、回復期、生活期分野の臨床業務に携わり、今年で13年目になりました。また東京都作業療法士会の教育部員や現行の代議員としての活動も行っています。ここ数年の臨床や士会活動、感染対策での生活様式の変化を通して、人との繋がりが生活に大きな影響を与えるという事を再度実感いたしました。それと同時に地域や職場によって作業療法士のおかれている環境の違いというのも実感してまいりました。この地域の作業療法士をはじめ、生活している方々が何か困ったときに頼りになる都士会にしていきたいと思い、この度立候補させていただきました。まだまだ若輩者ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

● 紙田 緑（府中刑務所）

この度、北多摩ブロック代議員に立候補いたしました、紙田緑です。東京都作業療法士会の活動に参加させていただき約10年が経過しました。この間、勤務先も変わり、2020年8月からは府中市にあります府中刑務所で勤務しております。この度立候補しました大きな理由は、矯正施設で勤務する作業療法（士）の発信を都内にしていきたいという思いです。矯正施設で勤務する作業療法士は、全国的にも少なく、都内ではまだ10名に至らない状況です。私が勤務する府中刑務所は日本最大規模の矯正施設で、国の動向に対しても、いち早く対応を求められる施設となります。そのような環境での作業療法（士）の情報発信を、北多摩ブロックの代議員としてできればと思います。

● 住田 多恵子（東京小児療育病院）

引き続き、東京都作業療法士会の代議員に立候補させていただきます。現在、子ども委員会と保険部で活動しています。

長年、発達分野で作業療法士として働いていますが、社会情勢の変化に伴い、お子さんたちを取り巻く環境も変わり、受けることが出来るサービスも変わって来ました。特別支援教育に関する研修の企画や、制度について情報の共有などを通して、作業療法を必要とする方々により良いサービスを提供出来るように働きかけていくことができればと思います。また、保険部の担当である災害対策分野でもお子さんに対する対応も今後、取り組む必要があるのではないかと考えています。これらの取り組みを行うにあたり、個々での活動だけでなく、職能団体である東京都作業療法士会の存在が今後より重要になるのではないかと考えています。その一部に微力ではありますが貢献出来ればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

● 田中 庸之（武蔵野中央病院）

この度、推薦を頂き代議員に立候補致しました武蔵野中央病院の田中庸之です。
現在まで精神科作業療法を中心に臨床での実践と在宅支援、介護予防事業等に携わり18年以上が経ちます。また北多摩ブロックの開始当初より7年に渡りブロック委員として活動をさせていただいています。素敵な多くの委員に囲まれ、年代、職域の違う様々な方々と研修や地域活動等に取り組み貴重な経験をしています。なかでも第16回 東京都作業療法学会の運営は、地域で活躍する支援者やボランティア、住民の方たちの協力を得たイベントを開催し大きな成果に繋げることが出来ました。これまでの経験や作業療法士に限らず地域との繋がりを強みに、東京都作業療法士会に微力ながら貢献したと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

● 田中 勇次郎（フリーランス）

引き続き、社員総会に参加し議決権を行使する権限を得たいので、代議員に立候補します。

● 田原 真悟（小平中央リハビリテーション病院）

このたび、代議員に立候補させていただきます田原真悟と申します。16年間、小平中央リハビリテーション病院にて身体障害領域の作業療法に携わって参りました。回復期リハビリテーション病棟、医療療養型病棟、訪問リハビリテーション、地域リハビリテーション事業にて、中枢神経疾患・整形外科疾患・認知症・神経難病等の対象者の方々と関わらせて頂いております。年齢や疾患を問わず、人間にとっての「作業」大切さを日々実感しております。また、ブロック活動では、北多摩ブロックの副ブロック長を務めさせていただき「ツドイノバ」という作業療法士の為の交流プラットフォームを運営させて頂いております。作業療法を必要とする方々や作業療法士の方々に貢献できればと考えております。よろしくお願い致します。

● 原田 祐輔（杏林大学）

北多摩ブロックのブロック長となり一年が経過しました。まだまだ浅い経験ではございますが、近隣の作業療法士と「作業療法」について話し合うたびに、作業療法士同士の繋がりの大切さを実感しています。また、卒前教育に携わっていることもあり、作業療法士と作業療法学生の繋がりを増やし、より良い卒前教育が実践できることを願っています。今回、代議員に立候補させていただいたのは、これらの繋がりを各所で増やしたいと考えているためです。微力ではございますが、東京都作業療法士会の活動に尽力したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

● 栗沢 広之（大久野病院）

私は、2007年より都士会活動に関わるようになり、2012年より約10年間理事を務めさせていただきました。現在は福祉用具部の担当及び市部ブロック担当として、任務を遂行しています。至らないところもあったとは思いますが、他の役員や部員、委員や会員の皆様の支えもあり何とかやってこられたと感じています。今後も微力ながら、皆さんが作業療法士として働く環境を一つ一つ整えていければと思い立候補いたしました。

● 上田 敏宏（島田療育センターはちおうじ）

この度、立候補しました島田療育センターはちおうじの上田敏宏と申します。今日まで発達領域で14年、働いています。現場では、発達領域のOTに対して社会的ニーズはあるものの発達領域のOTはどこにいけば会えるのかわからない、発達領域で働くOTが不足している、発達領域のOTで働いても1人職場などの困難さがあります。これらに対して、保育や教育の現場にOTの良さを知ってもらうPR、地域で拠点となるOTがネットワークを作り、見学や相談等の助け合う環境整備が必要ではないかと考えます。また、私は子育てしながら働いています。さらに育児だけでなく介護しているOTへの支援も行っていきたいとも考えています。研修で学びたいけど育児や親の介護でいけない場合は、都士会の研修を極力見逃し配信したいと考えています。東京都のOTのために、微力ながらも役立てればと思います。よろしくお願いいたします。

● 林 義巳（多摩リハビリテーション学院専門学校）

多摩リハビリテーション学院専門学校の林義巳でございます。私は本務では学校法人の理事として仕事をしております。そのため仕事内容は作業療法士教育に加えて、国や東京都からの通達に目を通し、将来の養成校の姿を予想して学校の方針を決定し、それに伴う申請業務や学校経営にも関わっております。

東京都作業療法士会では、作業療法の啓蒙活動はもちろんですが、士会としての将来の姿を予想し、今後さらに発展するためにどのようにすればよいのかを考えたいと思っております。微力ではありますが、よろしくお願いいたします。

● 松岡 耕史（多摩丘陵病院）

この度、2期目の代議員に立候補させていただきます松岡耕史と申します。私は現在、東京都作業療法士会の保険部担当理事を務めさせていただいております。主に保険制度に関する情報を都士会員へ提供することと、東京都の理学療法士協会や言語聴覚士会との三士会の連携や東京都や関係団体と連携して災害対策に関するシステムの構築に携わっています。私自身は身体障害領域の病院に勤務している作業療法士で、特に地域連携を大切に取り組んでおります。今後も、各ブロックや東京都三士会、地域の連携を深め、都士会員や対象者に貢献できるよう、代議員として取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

● 三沢 幸史（多摩丘陵病院）

2017年からの第1回代議員に引き続き、第2回代議員選挙に第6区選挙区（南多摩・西多摩ブロック）より立候補させていただきます。現在、協会常務理事、協会代議員、都士会副会長を担わせていただいておりますが、各地域の現場で働く作業療法士が会える対象者の方々や多くの専門職に自らの専門性を発揮して貢献していけるかが最も重要であると思っています。そこで、もっとも重要である私が働き、かつ生まれ育ったこの南多摩・西多摩ブロックの代議員として働きたいと思います。よろしくお願いいたします。

● 米山 貴紘（ふれあい町田ホスピタル）

今回、東京都作業療法士会代議員に立候補させて頂く、ふれあい町田ホスピタルの米山と申します。

前期におきましても、代議員を務めさせて頂き、東京都作業療法士会の運営について携わらせてもらいました。士会員においては、運営について様々な意見を持っている者も多く、その代表として今後の企画・運営についての助言を行っていただければと思っております。

未熟ではありますが、少しでも士会運営に協力できればと思い立候補させて頂きました。